

はしもと小児科

〒954-0112 見附市上新田町 449-7

TEL 0258-61-2400, 予約専用 61-2401, FAX 61-2402

<http://www.mynet.ne.jp/hasimoto/>

院長 橋本尚士:新潟大学医学博士,日本小児科学会認定小児科専門医,日本アレルギー学会認定アレルギー専門医



よだれかぶれ



<「よだれかぶれ」とは？>

離乳食が始まる頃から2歳くらいまでは、「よだれ」の多いお子さんがいます。「よだれ」は食べ物かすなどとともに、口のまわりにべちゃとくっついてしまって、皮膚に炎症を起こします。

「よだれかぶれ」の病態は、IV型アレルギーのひとつである接触皮膚炎です。したがって、「よだれ」という刺激がある間はすっかりきれいになりません。成長とともに「よだれ」が減ると、「よだれかぶれ」も軽快して行きます。

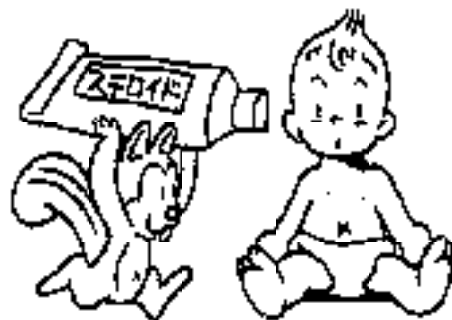
<治療>



1. 外用剤

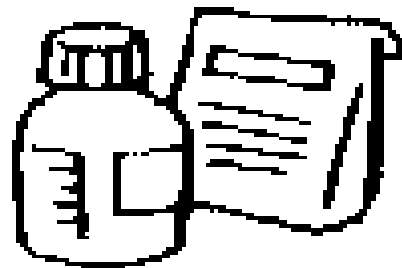
(1)口のまわりの赤味が強い時には、2-3日はステロイド軟膏を塗りましょう。アゴ付近はステロイドの吸収がいいので、赤味がなくなったら、保湿剤に切り替えましょう。

(2)一旦、よだれかぶれがよくなっても、よだれが多い間は保湿剤を塗り続けましょう。保湿剤を塗ることで、皮膚と「よだれ」の直接的な接触を減らすことができます。



2. 内服薬

かゆみが強くて、アゴをベッドや服にこすりつけるような時には、短期間かゆみ止めの飲み薬を処方する場合があります。



<ポイント>

よだれが多い時には、よだれや汚れをとるために、1日に10-20回は口のまわりを拭きますね。口のまわりを拭くと、よだれや汚れだけでなく、皮膚にうるおいを与える役目をもっている「皮脂」とせっかく塗った外用剤がとれてしまいます。1日に10-20回口のまわりを拭いたら、拭くたびに(つまりは1日10-20回)、外用剤を塗って下さい。拭き取られた外用剤は効きません。とくに保湿剤はまめに塗る必要があります。